

事業名 埼玉県環境科学国際センター 新築工事

環境配慮の考え方を広く取り入れた建物づくりを行うとともに、自然生態系を再現した公園等との整合性を図った周辺整備の実施

受賞機関 埼玉県住宅都市部営繕課
埼玉県住宅都市部設備課

事業実施期間 平成9年12月26日～平成12年3月15日

事業費 6,271百万円



西側外観

技術等の特徴と評価

エネルギーを多量に消費する建築にとって、環境に配慮して建設し、維持管理していくことが、これからの持続的社会にとってきわめて重要である。本事業では、環境問題への対応という建物の用途を考慮し、建築における環境配慮メニューを広範囲に取り入れている。

特に建物の外構等の設計は、自然エネルギー利用と環境共生の面での新しい試みがあり、評価される。

来訪者に環境配慮を強く意識させるこの建物は、建築における環境配慮のさまざまな手法のショールームとして、その存在意義は大きい。

事業の概要と効果

今回、大気汚染や廃棄物問題などの都市・生活型公害をはじめ、ダイオキシン等の環境汚染問題さらに地球温



北側外観

暖化問題など複雑化・多様化する環境問題に適切に対応する必要がある。本事業は環境科学の試験研究の充実、環境学習の充実、環境情報の収集発信及び環境面での国際貢献を主な施設機能とする新しい環境の複合施設として整備を図るものである。

施設の特徴としては、周辺環境に配慮するとともに、次に掲げるように、施設そのものが環境配慮のモデル施設としての機能も併せ持つような施設づくりを進めた。

- ・自然エネルギーの活用（太陽光発電、太陽光採光、太陽光集熱、風力発電）
- ・省資源・省エネルギー（雨水利用システム、浄化槽高度処理水再利用、タイムスケジュールによる照明の点滅制御等）
- ・熱帯材削減（型枠の一部に鋼製型枠を使用）
- ・リサイクル材の活用（ガラスリサイクル製品の使用）
- ・屋上緑化の実施（研究棟、エコロッジの一部屋上の緑化）
- ・施設の利用者、利用者への健康に配慮
- ・建物の長寿命化

なお、このような環境に関して多岐にわたる内容を充実させた複合施設は、全国的にも例は少ない。

受賞賛助会員 ㈱奥村組